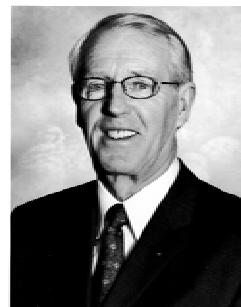


2006年6月30日

RI第2790地区ガバナー
Yoshitada Yamanaka 様



CARL-WILHELM STENHAMMAR
President, 2005-06

地区ガバナー各位

拝啓

私たちが共に今年度の終わりを迎えるにあたり、ガバナーとしての皆さんのご活躍に心よりお祝いを申し上げたいと存じます。皆さんの指導力のおかげで、2005-06年度が人々の記憶に残る年度となり、またロータリーは第2の世紀を迎え、発進することができました。国際ロータリーのような奉仕団体は、今日の社会において極めて重要な役割を果たしており、また将来においては今まで以上に重要な役割を果たしてゆくことになるでしょう。この将来に対して鍵を握る2つの言葉、それは「協力」と「継続」です。

ロータリーをはじめ、民間部門、他財団や奉仕団体、各国政府の支援が一体となったポリオ・プラス・プログラムを通じ、ロータリーは、「協力」と「継続」がいかにかに人類のために重要な役割を果たすことができるかの標準を定めました。国際ロータリーは、20年以上にわたり、WHO(世界保健機関)およびユニセフ(国連児童基金)を通じて国連と協力してきましたが、今、私たちはこの活動が成功の物語として語り継がれる時を待ち望んでいます。しかしながら、「協力」とは世界的な活動でなければならないわけではなく、それぞれの地元社会にも基づいていなければなりません。皆さんが元地区ガバナーという地位に名を連ねられるにあたって、私は、皆さんがそれぞれの地区やご自身の地域社会において、協力と継続のために尽力されていかれることと確信しています。

世界をすべての人々にとってより良い場所にしようとする努力は、一つの大きなパズルを完成させるようなものです。どの参加者もパズルの絵を完成するために、そのこまを協力して埋めていかなければなりません。国際ロータリーには、そのパズルを埋めるための多くのこまがあり、全体の絵の完成に貢献できることは素晴らしいことです。この奉仕のパズルを埋めるために、今年度を通じて皆さんが果たされた役割に対し、衷心よりお礼申し上げます。ロータリーが新世紀を継続していくにあたり、「超私の奉仕」を通して、一致協力し、世界に国際ロータリーの優れた指導力を示し続けようではありませんか。

敬具

A handwritten signature in cursive script, appearing to read 'Carl-W. Stenhammar'.

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー
2005-06年度 RI 会長

CWS/pg



2005-2006 年度 国際大会の感想



国際ロータリー第 2790 地区
2005-2006 年度 ガバナー
山中 義忠

2006 年 6 月 11 日～14 日、新世紀年の国際大会は、初めて北欧で開催されました。しかも大会プログラムの 80%強は、デンマークの首都コペンハーゲンで開催されました。国際ロータリー カール・ヴィルヘルム・ステンハマー会長は、スウェーデンの古都、マルメの御出身で、何故殆んどがデンマークでという疑問が、ガバナー・エレクトの時から私にはありました。然し実際に参加してみてその疑問は、限り無い感動と賞讃とともに消え去りました。この二国を繋ぐ国際親善、超我の奉仕、愛と平和の実践というロータリー理念、精神の実像は、古き殺戮と戦争の歴史を超えて、そうロータリーの究極の目標、人類愛による世界平和の実現として、私の心に温かい現実の思い出を創って呉れました。スウェーデンのマルメとデンマークのコペンハーゲンを結ぶ、ウアスン(オーレスン)長大橋は、簡単に交流出来る、北欧の自由と民主を象徴する架橋となりました。その他の大会の詳細は、ロータリーの友 8 月号の特集を御覧下さい。

(ロータリーの友ホームページ <http://www.rotary-no-tomo.jp/>)



ステンハマー R1 会長ご夫妻



開会式のパフォーマンス『マッチ売りの少女』



Bella Center Copenhagen(友愛の家)



Øresund Bridge(オーレスン大橋)

写真提供：ロータリーの友事務所



山中直前ガバナーへの謝辞

国際ロータリー第 2790 地区
ガバナー 白鳥政孝

山中直前ガバナーに於かれましては、地区内 85 のクラブを公式訪問され、ご苦労様でした。その間、地区大会、記念ゴルフ大会を開催し、各委員会活動に出席されて文字通り東奔西走、席暖まるに暇あらず、一年を経過されたものと拝察いたします。

発展の一途を辿っていた 100 年のロータリーから、前年度は変動激しいロータリー第二世紀の幕開けの一年でありました。その中であって悠々迫らぬ風貌と物腰で、地区内ロータリアンと親しく接してお話されてきたことに敬意を表します。人は会うことが大切であり、会って話す事がもっと大事であります。会って話しをして何をするかがさらに重要であります。

顔と顔を合わせて話合うことは、ロータリーばかりでなく、すべての人間生活の基本であります。

直前ガバナーはそれを厭わずに成し遂げたのであります。そこに奥様の万里子様が、いつもエスコートされて、微笑ましい雰囲気をかもし出しておられました。ロータリーは家族と共にあるべきという模範的な姿に、いつも感心して見ておりました。私にとりましては、大いに見習うべきことであります。

日韓インターアクト交歓会の時、寝台に身を投げ出して、ロータリーや人生について語り合ったことは忘れません。ガバナーの重責を担った一年、いや準備期間を入れると 2 年半の期間、本当にご苦労様でした。

「超我の奉仕」について異色な解釈の説明をされていましたが、愛・個・主について、いろいろ教えていただきたいことがあります。

いま大役を済ませホッとしているでしょうが、ロータリーは休息を与えてくれません。どうか私たちのために、地区のために旧に倍するご指導・ご支援をお願い申し上げます。

素晴らしいアシスト振りを発揮しておりました浜名直前地区幹事長を始め、チームワークの良い幹事団の皆さま、そしてガバナー事務所の深沢さん、明石さんから、沢山の資料と共にご指導を賜り、誠に有難うございました。

今後、皆さまのますますのご健勝とご発展を心から祈念申し上げます。